

1-10. 疾患モデル教育研究センター利用心得（卒論生用）

最終改正 平成 23(2011).4. 1

1. 疾患モデル教育研究センター(以下、疾患モデルセンターという)への立入について

指導教員があらかじめ動物実験計画書、備品利用申請書並びに入室登録申請書を提出済みであることが前提です。

- 1) 卒論生の疾患モデルセンターへの立入は、
 - (1) 指導教員が「入室登録申請書」を届ける。
 - (2) 疾患モデルセンター主催の講習会に参加する。(1)および(2)を終了することによって疾患モデルセンター長の許可を得ることができます。
- 2) 具体的な入退出方法は以下の通りです。

(注意)疾患モデルセンターへの入退出のために学生証が必要です。

 - (1) 木製ロッカーに疾患モデルセンター外で使用している白衣を掛けてください。
 - (2) カードリーダーが設置されている扉まで進み、1名ずつ学生証をカードリーダーに通して開錠してください。(ホストコンピュータで管理しています。入室は必ず1名ずつ行ってください。)
 - (3) 下足用の下駄箱に下足を入れ、疾患モデルセンター専用のスリッパに履き替え、手指を消毒し、マスク、手袋を着用して、疾患モデルセンター内用白衣を着用してください。
 - (4) 退室時は手洗い場で手指を洗浄し、入室時同様に学生証をカードリーダーに通して開錠してください。(ホストコンピュータで管理しています。退室は必ず1名ずつ行ってください。)
- 3) 各人の健康管理については、下記項目を厳守してください。
 - (1) 入退室時に、管理室横の所定の手洗い場にて手指を洗浄してください。
 - (2) 感染防御の観点から、手袋とマスク、帽子を使用してください。
 - (3) 疾患モデルセンター内では、専用白衣あるいは作業着の着用を原則とし、これらは各人が用意してください。
 - (4) 体調不良の場合は、動物の飼育を極力控えてください。
 - (5) 飼育室や実験室内で飲食しないでください。

2. 動物の飼育方法について

- 1) 給餌、給水、体重測定、床敷交換、洗浄等の飼育管理は各指導教員の指示の下で行ってください。
- 2) 飼料と床敷の補充(購入)と保管場所は、指導教員の指示を仰いでください。
- 3) 乾燥した飼育器具等は、適宜消毒(アルコール)・滅菌して使用してください。
- 4) 各飼育室に用意してある消毒薬で、ラック内および床の清潔を保ち、感染防御に努めてください。

3. 洗浄室、洗浄機等について

動物間やヒトへの感染事故が発生しないように、洗浄室と洗浄機の利用は下記のルールを守ってください。

- 1) 床敷は、洗浄室の床敷キャビネットにて処理してください。この際、幼弱な動物が紛れていない事を確認し、動物を発見した場合は殺処分するなど指導教員の指示を仰いでください。また逃亡動物や野鼠・昆虫等を発見した場合は、捕獲に努め管理室に報告してください。
- 2) ケージは原則として洗浄機で洗浄してください。
- 3) 給水ビンを手洗いしてください。ただし、本体のみは網かごに入れてフタをし、飛び出さないような処置がしてあれば洗浄機で洗浄することができます。
- 4) 洗浄機の故障の原因になるため、ケージフタは手洗いを行ってください。
- 5) 洗浄機のコンベヤ作動中は、衣服や手指が巻き込まれないように注意し、非常時にはコンベヤの非常停止用ボタンを OFF にして停止させてください。
- 6) 洗浄作業終了後、床の清掃をしてください。
- 7) 洗浄した飼育器具は、教室や講座毎に定められた場所や棚で乾燥してください。

- 8) オートクレーブ滅菌装置の使用は、原則として疾患モデルセンター専任教員から使用方法の説明を受けた教職員が行い、卒論生は行わないでください。

4. 投与、麻酔、安楽死、剖検について

- 1) 動物愛護の精神にのっとり、指導教員の監督下に、投与、麻酔、安楽死、剖検等を行ってください。
- 2) 麻酔は、原則として腹腔内投与等による注射麻酔薬を使用するか二酸化炭素安楽死装置(通称ドリームボックス)を利用してください。エーテルを吸入麻酔薬として使用する場合は、指導教員の監督下で行ってください。(質問や疑問点があれば、疾患モデルセンター専任教員に尋ねてください。)

5. 屍体処理について

管理室、洗浄室、実験室等に設置してある所定の黒ビニール袋に屍体を入れ、セキュリティ内の場合は洗浄室内の冷凍庫に、疾患モデルセンター外からの場合は管理室前の冷凍庫に、それぞれ屍体処理簿に月日、学部、講座名、承認番号、研究代表者、氏名、動物名(統計処理の関係上動物種毎に記載)、頭数等の必要事項を記入して安置してください。屍体は後日動物専用霊園に運搬され、火葬されます。

6. 疾患モデルセンター外への動物搬出について

1) コンベ飼育室

動物を疾患モデルセンターコンベ飼育室から医学部1号館上階に搬出する場合は、逃亡防止に十分留意の上、小型昇降機を使用して下さい。また、医学部1号館上階から動物の屍体、汚物などを搬入する場合は、ビニール袋などで密封したのちに小型昇降機を使用してください。なお、小型昇降機の利用にあたっては必ず指導教員の監督下でおこなって下さい。原則として通常のエレベーターを使用しないでください。

医学部1号館以外へ搬出する場合は、上記の方法に準じてコンベ飼育室のセキュリティ出入口を使用してください。

2) クリーン・SPF 飼育室

動物を疾患モデルセンタークリーン・SPF 飼育室から医学部1号館上階に搬出する場合は、逃亡防止に十分留意の上、小型昇降機を使用して下さい。なお、小型昇降機の利用にあたっては必ず指導教員の監督下でおこなって下さい。原則として通常のエレベーターは使用しないで下さい。

医学部1号館以外へ搬出する場合は、上記の方法に準じてクリーン・SPF 飼育室のセキュリティ出入口を使用してください。

*なお、疾患モデルセンター内への動物搬入については、指導教員にお尋ねください。

7. 実験室の使用及び清掃、消毒について

- 1) 疾患モデルセンター内の実験室を長時間使用したい場合は、事前に指導教員が動物実験室使用届を管理室に提出してください。(但し緊急の場合はご協力ください。)
- 2) 実験室の使用後の消毒・清掃及び消灯は、必ず各人で行ってください。

8. その他

- 1) 床敷の空箱や空飼料袋等は、所定の場所に整理して置いてください。
- 2) 破損したケージ等があれば、すみやかに管理室に申し出てください。
- 3) 疾患モデルセンター内は静寂を旨とし、大きな声で話をしないでください。
- 4) 指導教員が不在の場合等で、清掃や届出書類等に関して疑問点があればセンター専任職員に、動物の取扱いや投与等について疑問点があれば、疾患モデルセンター専任教員に尋ねてください。

9. 参考書籍 疾患モデルセンター内に用意してあります。

- 1) 実験動物学—総論、田嶋嘉雄、朝倉書店
- 2) 新実験動物学、前島一淑、江崎孝三郎、朝倉書店
- 3) 初心者のための実験動物手技Ⅰ、マウス・ラット、鈴木 潔、講談社
- 4) 初心者のための実験動物手技Ⅱ、ウサギ・モルモット、鈴木 潔、講談社